

総合職試験 文学

問三 次の文章は別宮貞徳『翻訳と批評』の一節である。文中では、翻訳がどのような性質の作業であるかが比喩的に述べられている。文中の「創造活動」、「感性」、「技術」が具体的に何を意味するのかを考察した上で、あなたの考えをもとにこの一節に続く文章を600～800字で記しなさい。解答用の原稿用紙を使用すること。

翻訳者は、本質的に、音楽における演奏者と同じ立場に立つ。書かれた原語の背後にある作者の意図、イメージを読みとり、自分自身の解釈に従って、自分自身の言葉でそれを表現する。その際、原作者以上に骨身を削らなければならないとさえ言えるだろう。そしてその創造活動を支えるものは、演奏家と同じく感性と技術である。